

仁第十八号

破損蒸気雲揚艦人民、御拂下并廣告之義ニ付
於當局擔當可致旨御達ニ付伺

先般三重縣下第十九区紀伊牟婁郡阿田和村ニ於テ破損

セシ雲揚号之艦體及汽罐トモ再用之御見込無之ニ付右

物品御拂下并ニ廣告之順序等於當局擔當可致旨御達之

趣承知仕候因テ廣告振リハ成ルヘク詳細ニ掲載候方入

札致シ候者共ノ便利ト存候処當局臆測、取調ニテハ實

際ニ齟齬セシ時不都合ニ付該艦損シ振リ及ヒ陸揚セサ

ル物品ノ有無等ヲ滝野少佐、廉書ヲ以委詳ニ及尚合候

処別紙甲号之通り同氏ヨリ回答越シ候間乙号之通り廣

告候事ニ取計可申哉尤御許可之上ハ東京府下ハ諸新

聞紙、揭示シ又大阪府三重縣兵庫縣ハ東京府下ハ

往入第百三十四号

百九

毎頁

類第
十七
九百
号八

廣告振リヲ副ヘ右ノ振合ヲ以該廳ヨリ觸示シ相成候様
依頼可致ト存候条何分ノ御指令被下度此段奉伺候也

但滝野少佐来書中ニ汽罐ハ少シモ損シ無之云々
申越候得共假令損シハ無之トモ最早数年禁用セ

シ品ニ付テハ此上新艦等ハ再用ハ難出来ト存候
ニ付初祭御達之通り御拂ノ部ハ掲載致シ置申候

殊旨申添候也

主船局長

明治十年一月十八日

石川利行

海軍大輔川村純義殿

伺之通

明治十年一月廿二日

此回答書于十一月四日到来ス

義第七拾七号

義第五百八十五号ヲ以御掛合之云々委細致承候當艦
破損之模様并附着之品目等別紙之通り貴局之章稿ニ微
々相認ニ差送申候其他積込居候物品ハ勿論橋桁汽機械
水箱等之如キ品種ハ悉皆陸揚シ致候ニ付不日加田港廻
漕ノ倉ニ御吐候依テ別紙相添此段及御回答候也

雲揚艦長

九年十二月十七日

海軍少佐瀧野直俊

主船留長

石川海軍少丞殿

追テ御掛合書中汽罐再用之見込無之候ニ付云々御書
載有之候ヘトモ汽罐ハ少シモ損込無之ニ付御答之為

甲

百十

1290

× 以段ニ申進添候也

法員

1291

破損雲揚艦ハ三重縣下第十九區紀州牟婁郡阿田和村濱
ニ水面ヲ距ル丁凡十二三ロトノ處ニテ艦体之前部ニ
テ五ロト其後部ニテ三ロト半砂石ニ埋リ左舷ニ十
三度半ノ傾ヲ有ス左ノ略圖之通

圖中朱ヲ用ルハ破壊之ヶ所

圖面略ス

1292

海軍省

1293

概目

船種 ガンボート

船長 百二十六尺

船幅 二十四尺五寸

船深 十一尺

容積 百六十二噸七五^四

船體部^詞大別及属品ノ概目

材種 ナーカ木

甲板 二層

助鉄

梁鉄

柱鉄

鉄

船體吃水部ヲ装メル銅板

六十馬力汽鍋二個長十六尺四寸余直針六尺二寸余カツク附著ノ候

船體ヲ連著セル釘但吃水線ヨリ下銅其上ハ鉄下層甲板

ハ諸部屋破壊余ハ從之通

カモニーバンド一個

ライズパイプ六個

フヨールステータゲイ二個 但鉄物共

コンプレッショナルコントロール共各式個

ケプステン坐鉄物一個

ト坐鉄物大小八個

煙突坐鉄物一個

鏡リングボール三十個 但駐浪索魚金物之類

大砲フリップ缶釘銅製十個

鉄製ボルリードヘッド四個

「マリガル」二個 但「シー」フリグナムワイダ

ウインドパイプ坐鉄三個

梶坐ノ鉄物一個

ボートダビット「坐」金六個

鉄製チーピング「三」個

前後ノ「チ」エンプレート「ト」鉄物「デ」ツガイ「附」着ノ「儘」三十二個

「メ」ー「ン」ステ「ー」デ「ッ」タ「イ」鉄物「共」一個

ハンモックセキステ「ー」棹鉄「長」短「十四」本

士官室機関室仕切鉄板

機関室貯蔵仕切鉄板

貯蔵下士以下會食所仕切鉄板

左舷側略図中成線之上銅板剥取其他釘類附著之鏽物等
紙上、畫は誰々依り略す

紀伊半島郡阿田和村戸長

奥村正八郎

乙

蒸氣雲揚艦破損ニ付一般人民ノ賣拂下之義ニ

付廣告案

廣告

三重縣下第十九正紀州牟婁郡阿田和村濱ノ流着破損セ
シ雲揚艦之義今般入札ヲ以拂下候条右望ノ者ハ阿田和
村戸長ノ手高リ現品一覽之上明治十年三月三十一日迄
ニ當局ハ入札書可差出候事

但シ落札ノ者ハ皆金上納ノ上ニテ現品引取ルヘキ
事

海軍省内

明治十年一月一日

主 船 局

百十四

1298

概目

一 船體、阿田和村濱水面ヲ距ル大凡二間余ノ所ニ於テ
前部ニテ五尺後部ニテ三尺余砂石ニ埋リ居ルコト

一 船種 ガンボート

一 船長 百二十六尺

一 船幅 二十四尺五寸

一 船深 十一尺

船體等解剖ノ大別

一 材種 ケーキ木

一 甲板 二層

一 肋 鑢

一 梁 鑢

一 程 釘

一 膝鏡

一 船体吃水部ヲ包メルハ銅板

一 船体ヲ連着セル釘ハ銅鉄取交セ

一 士官室機関室貯蔵會食所ノ仕切及汽罐室ノ敷板等皆

鉄ナリ

一 其他船体ニ附着セル金物類ハ銅鉄取交セ

一 六十馬力汽罐二個 長十六尺四寸餘
直六尺二寸餘

但ストーム、カワプ 附属

1300

百十五

當省所轄蒸氣雲揚艦之義先般御管下紀州牟婁郡阿田和
村濱へ流着破損致候ニ付此度望之者へ入札ヲ以拂下候
ニ付御管下へハ貴廳ヨリ廣告方御取計相成候様致度猶
該艦一覽ヲ請ヤ者ハ同村戸長於テ可然取計候様豫テ御
申達置相成度此段併テ御依頼及候也

海軍主船局長

明治十年一月 日

石川利行

三重縣令

岩村定高殿

追テ東京府下へハ別紙察文之通り廣告致候ニ付御
管下へモ右ノ振合ヲ以御觸示シ相成度随テ入札書
ハ本年三月卅一日迄ハ貴廳へ御取纏メ之上當局へ

御選り越ノ事ニ御取計相成候様致度此旨モ御依頼
申添候也

海軍省

1303

當省所轄蒸氣雲揚艦之義先般三重縣下紀州牟婁郡阿田
和村濱へ流着破損致候ニ付此度入札ヲ以望ノ者へ拵下
候ニ付御管下へハ貴廳ヨリ廣告方御取計相成候様致度
猶該艦望ノ者ハ同村戸長へ手寄り現品一覽候事ニ御副
達置相成度此段御依頼候也

海軍主船局長

明治十年一月 日

石川利行

大坂府権知事

渡邊昇殿

追テ東京府下へハ別紙紫文之通り廣告致候ニ付御
管下へモ右ノ振合ヲ以御觸示レ相成度随テ入札書
ハ三月三十一日迄ハ貴廳へ御取纏ノ之上當局へ御

送リ越ノ事ニ御取計相成候様致度此段ニ御依頼申
添候也

送

1305

當省所轄蒸氣雲揚艦之義先般三重縣下紀州牟婁郡阿田
和村濱へ流着破損致候ニ付此度入札ヲ以望ノ者へ拂下
候ニ付御管下へハ貴廳ヨリ廣告方御取計相成候様致度
猶該艦望ノ者ハ同村戸長へ手寄リ現品一覽候事、御副
達置相成度此段御依頼及候也

海軍主船局長

明治十年一月 日

石川 利行

兵庫縣令

森岡 昌純 殿

追テ東京府下へハ別紙案文之通り廣告致候ニ付御
管下へモ石ノ振合ヲ以御觸示ニ相成度随テ入札書
ハ三月三十一日迄ニ貴廳へ御取纏メ之上當否へ御

百十八

1306

送リ越ノ事、御取計相成候様致度此段モ御依頼申
添候也

法員 筆

1307

仁第七十一号

雲揚艦附コニテニスル一個並刈阿田和村へ差置

候義等ニ付同

破損蒸気雲揚艦人民へ御拂下等之候ニ付本年一月十八日附仁第十八号ヲ以相副候節甲号ニ相副候滝野少佐ヨリ下官へ申越候書中ニ海機械水箱等之如キ品悉皆陸揚致シ不日加田港へ回漕可致云々記載有之候処コニテニスル壹個ニ該リ重量之品柄ニテ人力ニ任セ兼阿田和村戸長へ委託イタシ置候旨別紙之通前同人ヨリ申越候ニ付而者艦体同様入札ヲ以御拂下之義等新聞紙上一掲示追昔方及大坂府三重縣兵庫縣等へ最前之手続キヲ以該縣管下一觸示シ方依頼可仕哉ト存候条此段一應奉伺也

主船局長

仁第五百八十八号

百十九

1308

明治十年三月一日

海軍少書記官 石川利行

海軍大輔 川村純義 殿代理

海軍少将 中牟田倉之助 殿

伺之通

明治十年三月三日

1309

先般雲揚艦附着品御回令之節御回答ニ及置伏通ニ候処
陸揚致置候物品加田港へ回漕之節重大之物品積入候機
械之リ人カニ任ヤ兼終ニコニテニスル一個艦体付属品同
様阿田和村戸長へ委託致し置候間此段申進候也

十年二月十四日

海軍少佐滝野直俊

石川海軍少丞殿

追テ一寸五分分径テール綱一筋一寸一分径同打古綱一
筋都合ニ筋艦体繫留置戸長へ委託イタシ置候間此段
申進添伏也

仁孝乃天下之至道

雲揚殿の札如張是義の至道
雲揚殿の義の至道下
老の力に在る月三平の道
出奉るの旨の道
札送るの旨の道
子に示るの旨の道
現示るの旨の道
依而示るの旨の道
可示るの旨の道
道に示るの旨の道
道に示るの旨の道
道に示るの旨の道

仁孝乃天下之至道 百五十一

十三年三月三十日

五知局長

海軍少輔の御返書に謝意を述べた

海軍少輔の御返書に謝意を述べた

海軍少輔の御返書に謝意を述べた

海軍少輔の御返書に謝意を述べた

第八千四百十六号

昨明治九年十一月中三重縣下牟婁郡阿田和村海濱に於
て破損候御省軍艦雲揚号残骸切削方宮川剛外一名に
り別紙之通願出候処即今如何之御都合候哉至急御採
用之有無御報答有之度此段及御照會候也

明治十年三月廿九日

東京府知事楠本正隆

海軍省

御中

1314

往第八百三十七号

百三十一

海軍省

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

明治

1315

海軍省雲揚号残存械切剥

願書

私共儀開拓使之御許可ヲ蒙リ渡島国檜山郡江差浦ニ沉
 没致候開陽艦破存械取揚方累年試業仕尚又同支廳之所
 有庚午丸青森縣下北郡大間村ニ破壊致シ候ニ付右取揚
 方出願候処前同轍ニ御許可被下其方法ハ青森縣ニ委任
 相成寂寄之戸長木村重孝職務外兼取締ヲ以行事罷在候
 當今歸縣之際出京承候得ハ昨明治九十一年中三重縣下
 十九區紀州牟婁郡阿田和村海濱ニ破損仕候海軍省御軍
 艦雲揚号一旦土人切剥ヲ為ス其残存械切剥方今般私共
 ニ御免許被下候ハ、都テ自費ニテ盡方仕総揚高二拾分
 ノ一官納可仕候間右切剥方御許可被成下候様其御筋ニ

御進達被下度伏テ奉願上候也

第一大區十小區木挽町一丁目

十七番地種木さゆ方寄留

熊本縣第十六大區二小區

肥後國天草郡佐伊沢村

明治十年三月廿六日 山田新吾

滋賀縣

宮川剛

東京府知事楠本正隆殿

雲揚艦々体自費ヲ以テ切利之義滋賀縣宮川剛外一名ヨ
リ別紙往入第八百三十七号之通願出候旨付何分之御見
込致承知度此段及御照會候也

十年四月二日

事務課長

主船局長宛

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

水戸

1319

裁第百七十号ノ二

雲揚艦々体自費ヲ以切削之義滋賀縣宮川剛外一名ヨリ
出願ニ付云々御照會之趣致承知候右ハ既ニ入札拂之儀
ヲ廣告シ現今入札書七八通程モ當局ニ到着致居且此程
及御届置候通り入札之期限四月三十日迄延期之義モ廣
告致シ置候義ニ付宮川剛外一名出願之趣ハ御届届無之
忝人ニ於テ該艦望之義ニモ候ハハ外人ト同様入札致シ
可然ト存候右之趣ヲ以東京府ハ御回答相成度此段見込
御答申進候也

主船局長

十年四月四日

石川少書記官

事務課長

小森沢中秘史殿

百二十五

海軍省

第八千二百六十九号

三重縣下紀州牟婁郡阿田和村海濱、於テ破損候御省軍
艦雲揚号殘卷械切削方出願、付去月廿九日付ヲ以右御
採用有無及御照會置候処尚又別紙之通願出事情切迫之
趣、付至急何分之御答有之候様致度以段再應及御裁合
候也

東京府知事楠本正隆代理

明治十年四月五日

東京府大書記官千田貞曉

海軍省

御中

往入第八百七十四号

百二十六
海軍省

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

海軍

丙三一八〇

破損雲揚舩殘卷械切剥方申願

三重縣下十九區紀州牟婁郡阿田和村海濱、破損仕候雲揚号殘卷械切剥方御免許被成下候様共御筋、御進達被下度段先月廿六日書面ヲ以奉願上候処今以何之御佐汰不給私共夫而已滯京罷在候奈右願之通御許可被成下置直、彼地、出頭着手仕度候間何卒至急雄雄之御佐汰被下給度伏テ奉願上候也

府下第一大区十小区木挽町一丁目

十七番地ヨノ第一号種木ささ方

寄留

熊本縣第十六大区二小区肥後國

天草郡佐伊沢村

百二十七

安政三年

明治十年第四月二日

山田新吾

滋賀縣

宮川剛

東京府知事楠本正隆殿代理

東京府大書記官千田貞暁殿

1325

滋賀縣宮川剛外一名ヨリ昨九年十一月中於紀州阿田和
浦及破壊候雲揚艦残り益械切^切剥方願出之由ヲ以去月廿
九日付御照會之末尚亦過ル事日御掛合之趣承知致候右
ハ先般既ニ入札拂方夫ニ廣告致シ目今入札書數通差出
有之候ニ付願意難聞届儀ニ候奈本人共ニ於テ該艦体並
残り益械等所望ニ候半ハ兼テ廣告致置候通入札候様御
達相成度此段及御回答候也

海軍事務課長

明治十年四月七日

海軍中秘史小森次長政

東京府知事代理

東京府大書記官千田貞曉殿

往出第五百七十九号

百二十八
海軍省

追テ三月三十一日限り入札期限之處都合向モ有之更
ニ四月三十日迄延期之儀夫々へ相達置候条此段為御
承知申副候也

1327

仁第千八号ノ五

雲揚艦拂下ケ落札ノ儀ニ付伺

紀州阿田和浦ニ於テ破損セシ雲揚艦拂下方於當局擔當
可致旨先般御達相成候ニ付拂下手煩等儀往入第百三
十四号ヲ以伺濟ノ上廣告致シ候末相集候入札書開札致
候處別紙人名ノ内鈴木伊兵衛ヨリ差出候分高札ニテ
取之土地柄ニ於テノ拂下故相當ノ價ト存候ニ付右ノ者
ハ落札申付候事ニ取計可申哉何分ノ御指令相成度此段
奉伺候也

但高札ノ者ハ八明後十六日迄ニ何分ノ儀ヲ可申達

旨申聞置候条其^{至急}御指揮相成度此旨申添候也

主船局長

明治十年五月十四日

海軍少書記官原利行

往入第千二百二十二号

百二十九

海軍省

海軍大輔川村純義殿代理

海軍少將中牟田倉之助殿

伺之通

明治十年五月十五日

1329

雲揚艦入札類

一金三百〇三四

長崎縣茅苅大區外浦町
六百六十五番地

橋本清

愛知縣下尾張國愛知郡名古屋
下小舟町北貳番地

西人組合

浦山忠藏

一金五百八拾四

同南雁鳥匠町志下目六番地

鈴木重信

大坂府下葛貫大區九小區道
頭坂九郎右衛門七五番地

一金八百〇三四

本城佐兵衛

大坂府下茅三大區八小區幸
町通三丁目志番地

一金八百拾六四

朝井小兵衛

愛知縣下茅志大區名古屋六右町
六十七番地

百三十

一金三百〇七四

山田 勘藏

東京府下茅志大區十四小區新紀泉町或番地

一金七百〇貳田貳拾五畝

小坂 守之助

味京府下瑪亮町三百番地

一金六百五拾七田三拾五畝

飯田 恒徹

和歌山縣下茅志大區示區西鍛鍛屋町

一金千百拾四

松田 彌五郎

同縣下茅志大區二小區鹽木林中町

一金七百九拾八田

鞍木 安丸衛門

全縣下同

一金千〇六拾四

天狗 喜兵衛

大坂府下茅貳大區志小區谷町通リ六十目

一金三百八拾三四七拾五錢

菰野 武兵衛

同府下茅三大區五區立賣堀北通六丁目十七番地

一金七百五拾五田

泉 伊助

克番札

一金九百九拾八回五拾五弍

同府下茅志大區六區南久
寶寺志下目

大西為助

一金六百貳拾回

同府下茅三區五小區薩摩城
裏町三十八番地

秋岡弥兵衛

一金六百七拾回

同府下茅三區七小區西長坂
南通り四丁目十七番地

井村篤兵衛

一金九百九拾貳回四拾五弍

東京府下浅草南元町三十貳番地

高原伊介

一金千四百三拾回

東京府下深川八幡町
棟木渡世

鈴木伊兵衛

東京府下神田西福田町

一金六百八拾回

加藤新十郎

東京府下茅二區四小區愛宕町
克丁目九番地寄道高知縣平民

百三十一

1332

一金七百三十拾田

内田卯三郎

東京府下第五大區三小區下谷御徒町志丁目第十番地

一金千百五拾四八拾弐

鶴岡佐吉

東京府下神田西福田町加藤新十郎三

一金五百九拾五四拾弐

渡邊平吉

横濱元町志町目八番地

一金七百五拾田

小野角次郎

東京府下第三大區三小區柴井町志番地

一金千貳百九拾田

原田政太郎

東京府下第廿二番地草葦前南元町三

一金千〇〇貳田四拾弐

高原伊介

大坂府第廿三大區五小區立賣坂北通四丁目

一金千〇貳拾五田

箕内田 伊八

一金三百五拾貳田

七拾五畝九リ

三重縣茅大區小區津萬町

秋月 負藏

一金八百九拾五田

同縣茅一大區山田尾上町松島
くま方寄留

宮 崎満 豊

同縣茅九大區松坂新町

而人組合

阿川 勤三

一金七拾田貳拾五畝

堀西 犀助

同縣茅十大區丹生寺村寄留

一金百五拾八田

和中 武兵衛

同縣茅十八區尾就鳥南浦
八十二番屋敷

一金千貳百八拾八田五拾畝

土井 忠兵衛

同縣茅十八區尾就鳥南浦
二百七十二番屋敷

百三十二

貳番九

一金七百〇五田

浅井敘助

一金三百五拾五田

同縣茅十九本浦

糸川理七

一金五百三拾田

同縣同區同浦

西村作次郎

一金千三百五拾八田

同縣同區同浦百共番地

杵岡武兵衛

一金七百七拾五田六拾弍

同縣同區同浦

鈴木宝十郎

一金六百五拾五田

五拾九弍

同縣同區上市本村

城内勝次郎

一金百五拾田

同縣茅二十區葛村本

東宗吉

一金六百三拾五回

同縣同區成川村二十番番屋敷

須川喜七郎

同縣第七區相賀村

一金千〇六拾五回八拾支

民部文五郎

同縣第十九區松坂中町百番番屋敷

一金六拾八回貳拾八支七リ

柏倉秀七

和歌山縣第七區六區西向

一金六百七拾五回

巽伊八

同

一金六百五拾回

同人

同縣同區下田糸浦百五番番地

一金六百貳拾八回三拾支

林山喜平治

同縣第七區十區太池浦

三番丸

一金六百三拾五円

福島 亀八

同縣第七大區土區新宮上熊野地

一金七百〇五円

細井 千代吉

同縣 同區新宮横町

一金五百七拾五円五拾五匁

山 田森之助

同縣 同區三輪崎村

一金千三百五拾円

原 田三木造

同縣 同區同村

一金千貳百五拾円

和 具柳兵衛

同縣 同區新宮下本町

一金五百五拾三円五拾匁九ノ

井上 真之助

三宅 久

仁第十八号ノ六

雲揚艦代金収入致候儀差ニ現品引渡方三重縣へ
申入候儀ニ付御届

雲揚艦御拂下ノ儀往入第千貳百七貳号ヲ以伺ノ通り御
指令濟之末代金千四百三十拾四落札人東京府下鈴木伊兵
衛ヨリ昨十九日納金相濟申候隨テ現品引渡方ノ儀ハ是
迄ノ續モ有之候ニ付阿田和村戸長於テ取計候様右申達
方等三重縣へ申入置候条此段候テ御届仕候也

明治十年五月廿一日 主船局長海軍少書記官石川利行謹

主計少監荒川勇居

海軍大輔川村純義殿代理

海軍少将中牟田八重之助殿

往入第千二百七十九号

百三十四

追テ鈴木伊兵衛ハ落札相成候旨ヲ東京府下外各札入
示方ノ儀ハ其入札書ヲ徑由シタル各地方廳ヨリ相示
シ候答ニ支々ハ依頼致置候条此段モ申添候也